

毎日を笑顔で 過ごすために

「新しい発見を誰かに広めること」「悩みや課題を共有しみんなで解決すること」「頑張っている人に感謝を伝えること」。これがシティプロモーションであり、私たちのより充実した生活につながり、これからの時代は大切になってきます。今回の特集のまとめとして、シティプロモーションの重要性を専門家に伺いました。



東海大学文化社会学部
広報メディア学科教授
たかよし
河井孝仁氏
静岡県職員、静岡総合研究機構研究員を経て現職。専門は、行政広報論、シティプロモーション、地域情報論。「シティプロモーションでまちを変える」(彩流社)、「失敗」からひも解くシティプロモーション」(第一法規)など著書多数。

市民の力が問われる時代

人口減少に伴い、近い将来、行政だけでは現在のサービスや地域活動の維持が困難になると予想されます。人口が減少しても市民が持続的に幸福な暮らしを続けるために、市民が主体的に活動し、行政では困難な活動やサービスの一部を担うことが期待されます。個人だけではなく、団体や企業なども含めた、さまざまなグループが主体となってまちに関わることが必要なのです。これからの時代、自治体によってその差が出てくるようになるでしょう。

那須塩原市は組織的にファンクラブのような市民によるPRグループを作っています。この取り組みは先駆的であり、私自身としても興味深く見守っています。私の著書でもその取り組みを紹介しています。那須塩原市は全国的にも注目されているまちなのです。

まちの魅力を創るのも

伝えるのも **人** である

最後に・・・

シティプロモーションは、まちに本気になる人を増やし

「住み続けたいまちづくり」を進めるとともに、人口減少時代に対応し、市外の人たちに

「遊びに来たい、交流したい、住んでみたい」と思われるまちづくりをすることも重要な役割です。

そのために、市の魅力や暮らしやすさなどをさまざまな方法で発信し、興味関心を持ってもらい、

関係してもらえよう取り組みを進めています。そして、皆さん一人一人がこのまちを好きになって、

たくさんの人にその魅力や自慢を発信することで、このまちに興味を持つ人が増え、人口減少に歯止めをかけ、

元気な那須塩原市であり続ける大きな力になると考えています。これから、このまちが

「住み続けたいまち」

「住んでみたいまち」

となるように、

シティプロモーションを続けていきます。

特集

まちに本気になる人を増やす
それがシティプロモーション

完